



COMPANY PROFILE



安全管理と技術開発。 たゆまぬ努力で さらなる飛躍を目指します。



代表取締役社長
鈴木 喜也

株式会社レールテックは、1992年4月に誕生して以来、社会に安心を提供するために、JR西日本の鉄道運輸の維持・発展の支えとなってきました。10年以上にわたり、私たちが業務の遂行をなし得てきたのは、ひとえに協力会社様のお力添えと社員一人ひとりの努力、社員のご家族の支えがあったからこそであり、深く感謝申し上げます。

私たちの使命は、社会インフラの要の一つである「鉄道を守ること」です。そのために、安全管理に真摯に取り組み、「魂を込めたルール遵守」を目指して安全強化について皆が話し合い、実体験を共有できる環境づくりを行っています。その一方で5年先、10年先を見据えた技術開発に取り組み、現場のアイデアやニーズを吸い上げる仕組みを作り上げました。現場の人が自ら考えたアイデアを連携とサポートによって形にしたり、ニーズを検討し、専門部署が技術開発をして問題を解決することが可能です。すでに「線路上の移動しかできなかった大型機械を小型化、軌陸化することで効率化が図れた」「機械に装着するアタッチメントの開発で、側溝の浚渫が機械化できた」などの事例があり、それらの拡充、展開は、今後の課題の一つと考えています。こうした技術力の蓄積と向上は、将来、事業拡大や海外進出の礎となるでしょう。

また、効率化・安全化を目的として、試験的にiPadを導入し、映像と音声を使って遠隔でも現場とのやりとりを可能にする仕組みを作りました。このようなIT技術の導入も今後、積極的に行っていきたいと考えています。

目指すところは「頼みにされる」組織として、皆様のお役に立つことです。そのために最も大切なのは“人”であり、社員と協力会社の皆様の努力や使命感なくしては達成し得ません。優れた人材を育て、技術力の高い、頼れる組織をつくるために、たゆまぬ努力をしてゆく所存ですので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



企業理念

レールテックは、
たゆまぬ技術の
向上によって、
安心で、より快適な
社会の実現に貢献します。

行動規範

- 私たちは、担当する施設や機械への想いと、型の徹底により、安全を確立します。
- 私たちは、業務の公共的使命に鑑み、コンプライアンスの実践により、問題の未然防止を図ります。
- 私たちは、自らの技術に誇りを持ち、自らが主役となって品質改善と技術力向上に挑戦し、広く社会に提言します。
- 私たちは、コミュニケーションの充実により、情報の共有化と課題の速やかな解決に努めます。
- 私たちは、自らと仲間との幸福のため、企業理念の実現に向けて行動します。

安全理念

私たちは、
過去の触車事故や
自動車事故による
死亡事故を忘れることなく、
人の命を守るため、
安全最優先こそ
最大の考動であるとの
決意のもと、
安全理念を定めます。

行動目標

1. 私たちは、一人ひとりの命の重みを常に自覚し、触車事故防止・自動車事故防止に努めます。
2. 私たちは、安全法（労働安全衛生法）・営近方書（営業線近接工事保安関係標準方書）等に決められたルールを守り、基本動作を実行することにより、思い込みや推測を排除し、安全を確立します。
3. 私たちは、日々自己研鑽に努め、設備や機械への想いを持ち、常に自らの技術や技能を向上し、安全性を高めます。
4. 私たちは、情報の共有化を図るとともに、不安全な行動を見逃さず、お互いに注意が出来る、風通しの良い職場環境を作ります。
5. 私たちは、異常時や判断に迷ったときには、列車を抑止する等の手立てを講じたうえで、最も安全と認められる行動を取ります。

スローガン

社会に安心を提供する
レールテックを築こう!!

レールテック 3つの宣言

【キッチリ宣言】
うまくやるより、キッチリやろう

【コミュニケーション宣言】
小さなことでも
必ず報告、連絡、相談しよう

【手順1仕事宣言】
事前にシッカリ考えて、
現場でキッチリ実行し、
後でジックリ振り返ろう



JR西日本エリアは、
 私たち“レールテック約1,200人”が
 それが使命であり、誇りです。

守ります。



最新技術と安全への情熱で、「安心・快適」な鉄道輸送を支える。

レールテックには、鉄道安全の基である線路を検査・診断する技術、大型機械などで整備する技術、検査・整備する機械を開発・検修する技術、線路を支える構造物を検査・診断する技術があります。私たちは、施設や機械への想いを持ち、こだわって仕事をしています。社員一人ひとりの持つ技術が、当社の大切な一番の資産です。培ってきた匠の技と日々の研鑽による感性が備わったオンリーワンです。

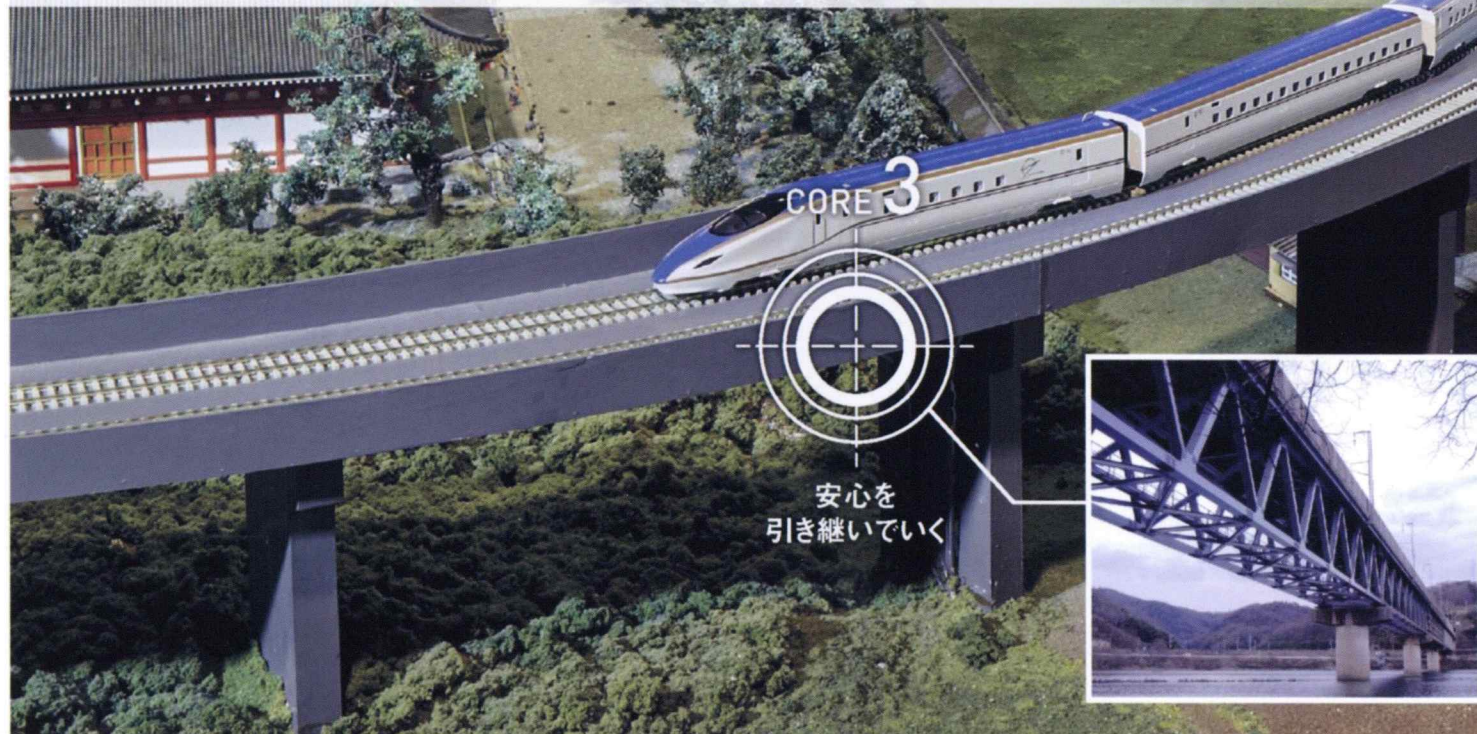
① 東京支所	近畿支店	岡山在来線営業所	⑳ 新幹線西支店
② 富山新幹線営業所	⑩ 京阪神営業所	岡山新幹線営業所	新山口新幹線営業所
米魚川駐在	⑪ 大阪調査監理センター	岡山調査監理センター	山口調査監理センター
③ 金沢支店	⑫ 和歌山調査監理センター	⑬ 米子支店	⑰ 厚狭在来線営業所
金沢営業所	⑬ 和歌山支所	米子営業所	⑱ 福岡調査監理センター
富山駐在	和歌山営業所	米子調査監理センター	⑲ 福岡新幹線営業所
金沢新幹線営業所	田辺駐在	⑭ 出雲営業所	
金沢調査監理センター	⑭ 福知山支所	⑮ 福山新幹線営業所	
④ 福井営業所	福知山営業所	福山在来線営業所	
敦賀駐在	福知山調査監理センター	福山機械センター	
⑤ 津島営業所	⑮ 西神戸新幹線営業所	MTT研修センター	
⑥ 京都調査監理センター	神戸機械分室	⑯ 広島在来線営業所	
⑦ 溶接技術センター	⑯ 明石営業所	⑰ 広島調査監理センター	
⑧ 大阪営業所	神戸調査監理センター	⑱ 広島新幹線営業所	
⑨ 本社	⑰ 姫路新幹線営業所	⑳ 徳山在来線営業所	
車上検測センター	⑱ 岡山支店		

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

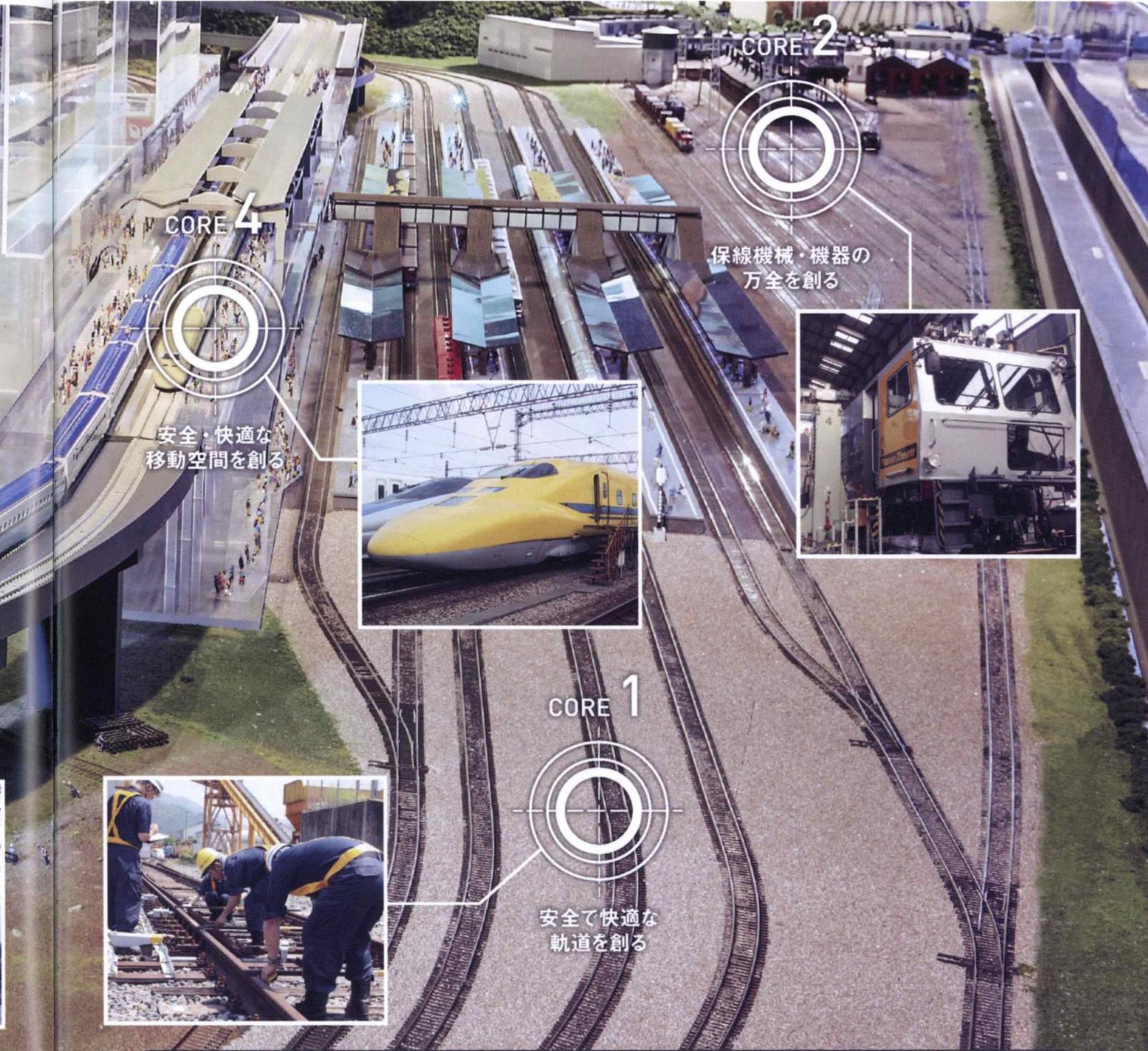
©2019年9月現在

私たちのワークフィールドは街。 創るのは安心で平穏な日常の街。

毎日あわただしく通勤や通学する人々。ショッピングやランチで華やぐ街。
街にはいろんなドラマがあふれています。街はドラマの舞台です。
日が暮れてドラマも終演に近づくころ街という舞台のメンテナンスを始めます。
新しいドラマが日の出とともに幕開けされる頃、メンテナンスされた舞台を街の人々にお渡します。
何事もなかったかのように。
安心に日々を過ごしていただく舞台を整備する…
それが私たちレールテックに課せられた任務であり、私たちのドラマでもあります。



CORE 3
安心を
引き継いでいく



CORE 4
安全・快適な
移動空間を創る



CORE 2
保線機械・機器の
万全を創る



CORE 1
安全で快適な
軌道を創る



4つのコア事業で
安心を創ります。

CORE 1 安全で快適な 軌道を創る (軌道部門) 求められるのはミリ単位の 作業。快適な乗り心地は 職人たちの匠の技に支え られている。 	CORE 2 保線機械・機器の 万全を創る (機械部門) あらゆる保線機械に精通 したプロフェッショナルが、 今日も完璧なメンテナンス で車両を送り出す。 	CORE 3 安心を引き 継いでいく (構造物部門) 我々に求められている役 割、それは、「次世代に良 質な土木構造物を引き継 いでいくこと」。 	CORE 4 安全・快適な 移動空間を創る (コンサルティング部門) どんな小さな異常も見逃さ ない。安全・快適な移動 空間に欠かせない専門家 集団。 
--	---	---	---

NEXT CORE

さらに創り出される新しい技術
現場の声をすぐにかたちにする推進力

<p>問題点と改善点は現場にある。 現場で出た声は即実行。 現場で役立つ新しい創意工夫が たくさん生み出されています。</p> 	<p>載・退線が容易。 限りある作業時間を有効に 使える軌陸車。 レールランナー</p> 	<p>側溝の土砂などを ノータッチで浚渫が可能。 3Kといわれる職場環境も 同時に改善。 側溝浚渫用アタッチメント</p> 	<p>踏切から容易に載線が可能で、 波状摩耗やきしみ割れを 安価・効率的に除去できる。 自走式波状摩耗削正器</p>  <p>砥石式削正器 ベルト式削正器</p>
---	--	---	---

CORE
1

軌道部門

安全で快適な軌道を創る

【事業概要】

- 新幹線、在来線の軌道検査
- マルチプルタイタンパ (MTT)、(分岐器MTT) による線路整備
- レール削正車によるレール削正
- 新幹線の確認車による線路確認
- レール溶接施工

求められるのはミリ単位の作業。 快適な乗り心地は職人たちの匠の技に支えられている。

軌道には列車が走るたびに負荷が加わり、それが安全や乗り心地を左右する線路のゆがみの原因となります。そこで線路（軌道）に直接触れて検査・保守することで、常に最良の状態に軌道を整備していくことが不可欠となります。

軌道検査では、いろいろな測定機器を使って線路の状態を検査・診断し、軌道整備では、「マルチプルタイタンパ (MTT)」や「レール削正車」

とよばれる高性能な大型機械を駆使して軌道のゆがみや狂いを修正していきます。

終電から始発までの限られた時間に行われることが多い過酷な作業ですが、これらの作業が欠かさず行われているから、日々の安全で快適な乗り心地は実現しているのです。

【軌道検査】

軌道狂い検査

簡易型軌道検測装置 (トラックマスター) や踏検測装置で軌道の上下・左右方向の歪みをミリ単位で測定・診断。その結果に基づいて整備場所や方法を検討・実施していくことで、列車の安全走行を確保します。



分岐器細密検査

分岐器を解体して浸透探傷法などでレールおよび付属品に対する傷の有無や進行状況をチェック。列車の安全走行に万全を期します。



【レール溶接】

ロングレール溶接ライン

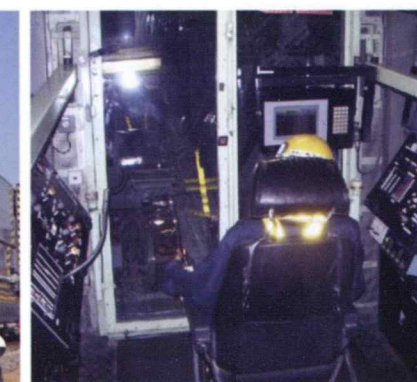
25mや50mのレールを溶接して長さ200mのロングレールに加工。継目をなくすることで乗り心地の向上や騒音・軌道保守量の低減が図れます。向日町レール溶接ラインはJR西日本で唯一の200mレール製作工場です。



【軌道整備】

マルチプルタイタンパ (MTT)

道床を高圧でつき固めることで軌道の歪みを直し、乗り心地の良い状態に整正する大型機械。多くの機器を操作できるスペシャリストが求められる。人力と比べて大幅に短時間で効率良く作業できます。



レール削正車

レール表面の小さな凹凸を削る大型機械。1/100mmという高い精度でレール表面を削ることで傷んだレールを新品レールと同等の状態に回復。騒音や振動を低減させる効果があります。



あらゆる保線機械に精通したプロフェッショナルが、 今日も完璧なメンテナンスで車両を送り出す。

保線機械・機器は常に万全の状態であることが求められており、定期的に行われる検査（車でいうところの車検）に合格したものが現場で活躍することができます。
鉄道の安全と快適を実現する精度の高い検測・調査を維持するために、大型保線用機械をはじめ大小さまざまな機械に精通したプロフェッ

ショナルが機械の細部まで調査し、点検やメンテナンスを行っています。さらに点検技術のノウハウを活かして保線用機械の改良や開発を行っており、よりレベルの高い保線作業環境の実現を目指しています。

【整備】

福山機械センター

新幹線で使用する大型保線機械を細部に至るまで分解・点検し、メンテナンスする最新設備が整った工場。稼働状態のデータ分析もあわせて行っています。



【検査】

機械メンテナンス

老朽化した部品や欠陥を早期に発見し、機械の延命化ができるようにメンテナンスを行っています。

部品測定

機械の使用により磨耗する部品を測定し、整備が必要な部品の交換が必要かを判断しています。



【機械研修】

機械研修考動館

過去の機械故障や機械検修に起因した不具合事象の情報を、実際に現場において作業している社員に周知し、機械検修のレベルアップを図ることとしています。また、実際の不具合部品や教材を実際に検査・分解を行い、経験やノウハウを蓄積していく場としています。



CORE 2 機械部門

保線機械・機器の万全を創る

【事業概要】

- MTT、DGS、SMTT、確認車、レール探傷車、レール削正車、バラスト作業車、トンネル覆工表面撮像車などの大型機械の修繕および定期検査
- 保線用各種機械の改良・開発

CORE
3

構造物部門

安心を引き継いでいく

【事業概要】

- 橋りょう、トンネル、土木設備等（盛土・切土）の検査
- 土木構造物の調査（測定・診断）
- 土木工事の設計監理

我々に求められている役割、それは、
「次世代に良質な土木構造物を引き継いでいくこと」。

鉄道の構造物は建設された年代が幅広く、建設後100年を経ている構造物もあります。線路を取り巻く多くの土木構造物に対して、検査・調査・診断を実施し、適切なメンテナンス方法を提案することで列車の安全走行に貢献しています。

一方、土木構造物の建設や補修工事においては、ライフサイクルコスト

を視野に入れた良質な構造物を建設していくことも、将来のメンテナンスにとって非常に重要な要素です。そのため、「安全」で「高品質」な鉄道土木工事の施工を実現する工事監理も提供しています。

【検査】

橋りょう、トンネル、土工等設備（盛土・切土）について、定期的な検査の計画、実施、健全度の評価、変状原因の推定等を行っています。検査を行うには、各専門分野に関する設計から施工までの幅広い知見が求められます。

橋りょう



トンネル



土工等設備（盛土・切土）



【調査】

定期的な検査で抽出された変状について、より詳細で客観的な情報を得るため、計測機器による測定や試験、解析を実施するなど、構造物の診断や対策の提案を行っています。調査を行うには、専門分野に関する高度な専門的応用能力と課題解決能力が求められます。



【工事監理】

鉄道施設や鉄道に近接した土木構造物の建設・改良・補修工事を、安全かつ所定の品質・工期で完成させるため、施工会社が設計に基づき適切に施工しているかを確認する工事監理を行っています。



どんな小さな異常も見逃さない。 安全・快適な移動空間に欠かせない専門家集団。

最高速度300km/hで走行する山陽新幹線をはじめ、大都市の動脈線路（軌道）や輸送量の少ない地域の在来線まであらゆる条件の軌道を、「新幹線電気軌道総合試験車（ドクターイエロー）」、「在来線総合検測車」、「超音波レール探傷車」など最先端の検測車両を駆使して検測、診断。質の高い軌道保守の第一線を支えています。さらには、軌

道構造・材料などの測定や列車乗心地の調査、レール溶接の指導なども行っています。

高い技術力と専門知識を持った技術者たちに安全で快適な鉄道輸送は支えられているのです。

CORE

4

コンサルティング部門

安全・快適な移動空間を創る

【事業概要】

- 新幹線電気軌道総合試験車（通称：ドクターイエロー）による軌道検測・分析
- 在来線高速軌道検測車（キヤ車）による軌道検測・分析
- レール探傷車による超音波レール探傷測定・分析
- 施設環境システムの開発・運用・保守
- レール溶接およびレール探傷の技術管理
- 技術開発およびこれらの販売および特許事業

【検測】

在来線総合検測車

電化・非電化区間問わず、在来線の軌道状態を列車並みの速度で測定する検測車両です。JR西日本管内を1年中移動しています。「キヤ車」とも呼ばれています。



新幹線電気軌道総合試験車

東海道・山陽新幹線を10日に1回往復（東京～博多）し、新幹線の軌道状態を最高270km/hの高速で測定する検測車両です。ドクターイエローの愛称で親しまれています。



超音波レール探傷車

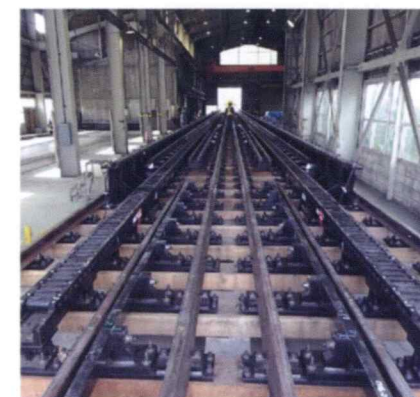
新幹線および在来線のレール内部に発生する傷を発見する車両です。車両に搭載した超音波探傷装置が走行しながら高い精度で傷を発見していきます。



【調査】

軌道材料応力測定

レールやマクラギといった軌道材料の応力などを測定し、分析評価を行っています。



列車乗心地測定

新幹線の乗心地を測定し、分析評価を行っています。



【溶接技術】

レールの溶接および探傷の技術管理を行っています。



NEXT CORE

さらに創り出される 新しい技術

レールテックでは技術の継承のみならず、新しい技術の開発にも積極的に取り組んでいる。そこには、「現場の声から生まれた技術開発」、「本社が主導する将来を見据えた技術開発」というふたつの大きな考え方が流れている。その具体的な取り組み事例をご紹介します。

技術開発成果発表会2014

第4回鉄道技術展(平成27年11月11日~13日 幕張メッセ)

問題点と改善点は現場にある。 経験とすぐに実行する推進力で現場で役立つ 新しい創意工夫を生み出す。

現場第一線の技術開発

現場第一線の社員や協力会社の方々から、「気がかり事象」や「リスクアセスメント」の取り組みを通じて、多くの改善提案が出されています。これらの改善提案は、現場の作業がこれまで以上に「安全」になり、「効率的」かつ「検査等の精度向上」が図れることを目的として取り組んでいます。さらに、現場で「思いついたら動ける体制」とするために、現場の問題点や課題を解決する知恵・能力がより一層発揮できるようにサポート体制を整えています。

開発事例

- ・保守用車の後方移動時の安全装置
- ・軌道自動自転車積込治具
- ・空間測定装置
- ・高低縦距測定器
- ・TK車応急復旧器具
- ・LED照明付点検ミラー



保守用車の後方移動時の安全装置



特許登録済(特許第6146911号)

軌道自動自転車積込治具

本社等が主導する技術開発

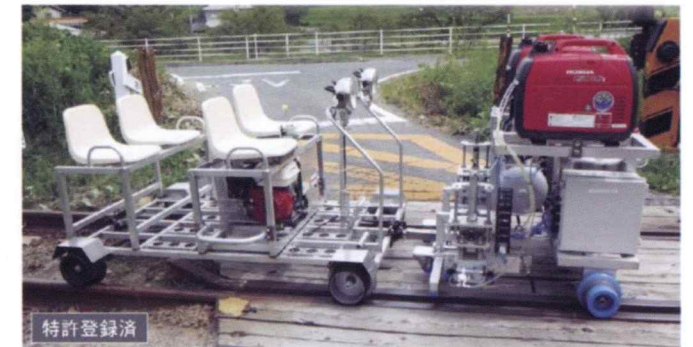
作業の効率化・現場のニーズ・社会情勢の変化に対応すべく、外部の協力を得ながら将来を見据えた新しい技術に取り組んでいます。

■さらなる効率化を目指し開発したもの

従来は3名が必要な業務を2名で施工できる省力化技術や検査結果記入の簡素化を目指し開発。

開発事例

- ・分割式軌道自動自転車(特許第5904969号)
- ・推進式継目塗油機(特許第6150704号)
- ・検査結果記入帳票の電子化(タブレット化)



特許登録済

分割式軌道自動自転車と推進式継目塗油機は連結することができ、より効率的な作業を実現。

■現場ニーズの多様化に対応して開発したもの

大型の削正車は、保守用車使用の運転手続きに大幅な時間を要するために実作業時間が短い。そこで、踏切から容易に載線が可能で、波状摩耗やきしみ割れを安価・効率的に除去できる「自走式波状摩耗削正器」を開発。

開発事例 ・自走式波状摩耗削正器



自走式波状摩耗削正器



碓石式削正器



ベルト式削正器 特許出願中

■人口減少、少子化など社会の変化に対応するもの

ヘドロ状態の側溝浚渫作業やバラストのかき上げ作業などは、3K作業と呼ばれる業務であり、作業員の確保が困難になってくる状況が考えられる。そこで、重労働作業などを機械が代行する技術を開発。

開発事例 ・側溝浚渫用アタッチメント



側溝浚渫用アタッチメント

安

安全を創る。

ルールを守り、仲間の命をも守れる
信頼される安全な技術者集団へ。

取締役兼常務執行役員
安全推進室長
垣尾 徹



2019年度 安全スローガン

一人ひとりが主役となって安全を創りこもう!

現場に安全は、存在しません。
常に存在するのは、危険です。

私たちは、一人ひとりが現場に存在する危険を自らが認識し、安全な状態を創りだし、業務を適切に遂行しなければなりません。そこで、2019年度の安全スローガンを「一人ひとりが主役となって安全を創りこもう!」としました。これくらいは大丈夫だろう、以前も上手くいった、苦もやっているなどを排除し、不安全な行動をする仲間がいればお互いに注意が出来る、そんなコミュニケーションを築いていきましょう。それが、私たちの役割であり責任です。

2019年度の重点取り組み

触車や自動車事故での死亡事故を二度と起こさないために、レールテックでは関係協力会社と連携し、ルールを守ることに主眼をおいた取り組みを進めています。

一人ひとりが主役となって安全を創りこもう!



継

技術を継承する。

鉄道施設の専門医集団の誇りと、
脈々と受け継がれる確かな技術。

軌道部門 技能競技会

- 分岐器部材組立競技
- 機械技術(回路図競技)
- 機械技術(ホース油圧競技)
- 軌道検査競技(分岐器検査)
- 軌道検査競技(軌道狂い検査)
- 匠競技(目通し競技)
- MTT競技(異常時対応競技)
- レール探傷競技
- MTT手押し競技



構造物部門 技能競技会

- 橋桁デザイン競技
- 橋桁耐荷性能競技
- 鋼橋検査競技
- 斜面検査競技
- 土木知識競技



財

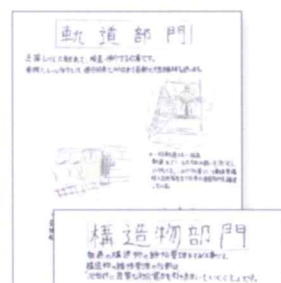
社会や地域の人たちと育っていききたい。
それがレールテックの人財育成です。

会社の成長と人の成長はイコールと考えています。
お世話になっている地域に思いやりを貢献として
お返ししたい。レールテックは人と
思いやりを育んでいきます。

入社時

新入社員研修

企業人としての心構え、挨拶、マナー、電話の対応及び社員としての基本的な知識、技能を教育し
特に安全研修(線路内への立入り教育・列車防護訓練・KYT及び触車事故防止)を行います。



鉄道を安心に運行させる為、私たちがります



レールテックの魅力
1 仕事内容
2 福利厚生
3 働き方

新入社員研修 最優秀チーム作品
チーム名:レールエッグ

入社2~4年 フォローアップ研修

安全作業意識、勤務等に関する知識と、保線の基本的な知識等の振り返りを行います。軌道工事
管理者・軌道検査技士及び機械検修等に求められる知識等の習得、基礎技能の振り返りにより技能
の定義と更なる実務能力向上の支援を行います。



各部門別の専門能力養成研修

確認車運転者資格取得講習会

確認車運転者の早期育成を目的に本社、福山新幹線保守基地内及び各軌道
営業所にて行う短期集中の研修です。資格取得に必要な知識や、実務に必要
な機械構造、操作を中心に訓練等を実施します。各軌道営業所では実際の作
業に出て見習い訓練を実施し入社7ヶ月で資格者として従事可能となります。



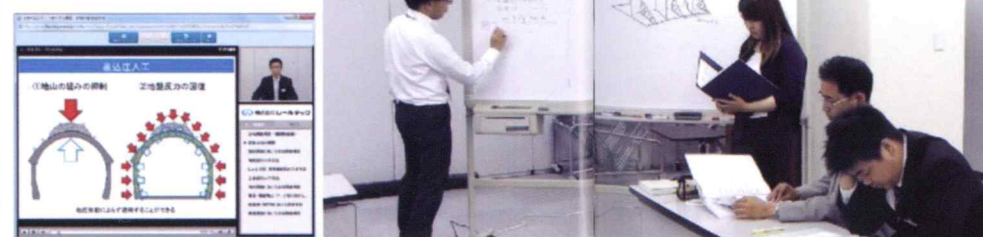
MTT研修センター

毎年軌道系社員の中から10名程度を選出し、11ヶ月の長期間にわたり保守基地
内、在来線営業線、各軌道営業所にてMTT新規資格取得講習会を実施します。
座学その他、保守基地内で基礎的なMTT構造や操作方法を訓練し、営業線で
実際につきあわせ技能向上を図ります。MTTつきあわせ操作、機械構造、機械基
礎知識、異常時対応能力を習得し、現場の第一線で活躍できるオペレーターの育
成に取り組んでいます。

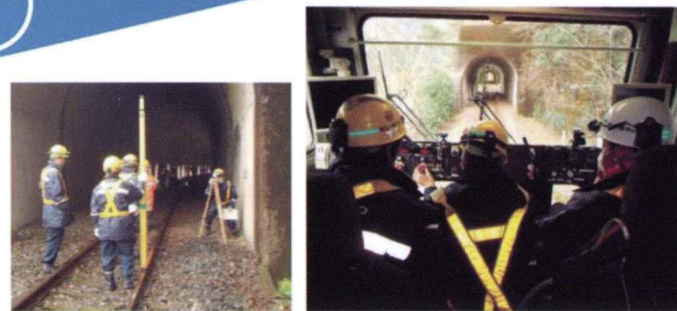


レベルアップ研修

構造物の維持管理の技術知識については、
各自のレベルに合わせて、専門分野毎に
研修を実施しています。そのうちの基礎的な
内容については、動画講義をパソコンで
視聴するeラーニングで習得します。



スペシャリスト養成研修



MTTレベルアップ研修

MTT操作ができる「オペレーター」から、
MTTを自分の思い通りに操る「パイロット」
になるため、保守基地内及び実際に
電車の走る営業線でのつきあわせ訓練
を行います。様々なMTT施工方法やその
理論及び機械故障時の対応を習得、計
画から施工までの一連の業務と機械知
識のレベルアップを図り、安全で乗り心
地の良い線路を作るMTT業務のリーダー
を目指します。

分岐器学級

分岐器の構造ならびに各部の調整方法等、専門的な知識及び技能を3ヵ年計画で習得します。
また、鉄道事業者が保守・管理に苦慮している分岐器の現場調査を行い、調査結果を元に改善
点や補修方法を提案する実践的研修も行います。これにより、現場指導ができる地区リーダー
を育成します。



レール管理学級

レール管理に必要な技能等を有する技術者を育成し、
各地区における指導体制を整備すると共に、レール管理
業務のレベルアップを図ります。溶接、削正等のレール
基礎知識ならびに超音波探傷に関する専門的な知識
及び技能を習得して各支店管内営業所にて現場指導の
実習を実施し地区リーダー及びレール管理業務のエキス
パートを目指します。



レール削正講習

3ヵ年計画でレール削正(スベノ、リンジガー)のオペレーターの資格取得及び技能の
向上を目的に、近畿地区において講習会を実施します。1年目に座学及び基地内の講習
で削正理論、機械構造、機械操作について習得し、営業線で見習いとして従事し資格を
取得します。2年目以降は1人前として現場作業に従事し、施工結果等から品質向上に
必要な課題を自ら考え解決していき、現場の第一線で活躍できるエキスパートを目指します。



機械検修

機械故障等、不具合事象の情報を現場スタッフと共有し機械検修
のレベルアップを図り、故障予防・発見・修繕におけるスペシャリスト
を育成します。

橋りょうカルテ研修

構造物部門では、鋼橋の維持管理を適正に行うため、橋りょうを診断
し、処方箋を記載したカルテの作成ができる専門家を育成しています。



標

先輩に追いつけ。
私たちが掲げた目標。

技能・提案、さまざまな能力を向上させて、
次世代のレールテックを支える一人になって
いきたい。



軌道部門
2012年4月入社
厚狭在来線営業所・
技術係
青木 大地

列車の乗り心地に直結してくる線路の凹凸や、歪みを整正する保線用大型
機械マルチプルタイタンバ (MTT) の特殊運転が私の主な業務であり、機械
の運転、整備等も行っています。今後は、MTTの技術、技能、知識を向上さ
せるのはもちろんのこと、よりよい線路をつくらせていくために、JRに施工箇所や
施工方法を提案できるようになりたいと考えています。また、近い将来、中堅
社員に加え、若手と呼ばれている私たちが会社を引っ張り、支える立場になっ
ていくので、自分もその中の一人になりたいと思っています。

上司、先輩の指導のもと
鉄道技術のトップ集団の一員としての仕事
に励む。



構造物部門
2009年4月入社
近畿支店
京都調査監視センター・
技術係
岩瀬 貴之

私は「今までに培った土木と鉄道の知識を活かしたい」「現場の第一線で活
躍したい」という思いからレールテックを選びました。現在は、鉄道土木構造物
(橋梁、トンネル、土構造物、停車場等)の検査および調査に携わっています。
今後は、技術士の取得を目標に自己研鑽に励み、取得後は現場で技術力を
生かして鉄道土木構造物の維持管理に貢献していきたいです。また、私がこ
れまで上司や先輩方から仕事のやり方、技術力等についてご指導いただいた
きたように、後輩を指導して一人前の責任者に育てたいと考えています。

興味のある鉄道分野で、
学んだ機械構造物診断の知識を活かせる
会社。



機械部門
2012年4月入社
技術開発部・技術係
大隅 啓介

大学では非破壊検査を用いた手法による機械構造物診断の研究活動を行っ
ていたので、興味のある鉄道分野で学んだ知識を活かしたいと思い入社しまし
た。入社当初は「1mmオーダーレベルでの精密な測定が、これほどまでである
と」驚きもありましたが、今では、新たな測定方法確立に向けた技術開発が
私の業務の中心です。また、当社は現場第一の会社ですので、現場社員の
ニーズをしっかりと把握し、働きやすい環境および作業がしやすい環境を実現
させていくために、技術開発部一丸となって技術開発に取り組んでいます。

溶接技術だけでなく
線路全般の知識と技術向上を図りもっと
貢献していきたい。



コンサルティング部門
2013年4月入社
溶接技術センター・
技術係
杉原 淳平

鉄道は、私の生活の中でなくてはならない大切な移動手段であり、その周辺
の方々の暮らしを支え、大きな社会貢献ができると思いレールテックに入社しまし
た。主にレール溶接業務に従事しており、昼夜レール溶接をしています。まだ
レール溶接の資格を取得していないので早く資格を取得し、溶接に関する知識
や検査方法、軌道構造など線路全般の知識と技術向上を図っていきたく
考えています。また、現場の最前線で働くためにも、これからの業務に必要となる
各種資格取得に挑戦し、会社に、社会にもっと貢献していきたいと思
います。

感

感謝の気持ちを形に変えて
少しでも地域のお役に立ちたいと
考えています。

社会貢献

北陸新幹線開業前 金沢駅清掃活動に参加

北陸新幹線開業を間近に控え、金沢駅の清掃活動に参加しました。雪が積もり
冷え込みが厳しい朝でしたが、皆笑顔で清掃を行いました。



平和記念公園清掃を実施

国内外から来られる多くのお客様に気持ち良く、戦後70
周年を迎えた世界遺産「原爆ドーム」「平和記念公園」
を見ていただくために、清掃活動を実施しました。今後も、
地域密着の一環として清掃活動を実施していきます。



福利厚生 (レクリエーション)

社員がいい仕事をするためには、その社員の家族の理解と協力が必要です。レールテックでは社員の
家族も社員同様大切な会社の一員であると考えており、社員と社員の家族の満足度を無限大にする
ことを目指し、エリア各地ではバーベキューや野球大会など、社員と家族が参加して楽しめる様々な取
組みを企画・実施しています。



会社概要

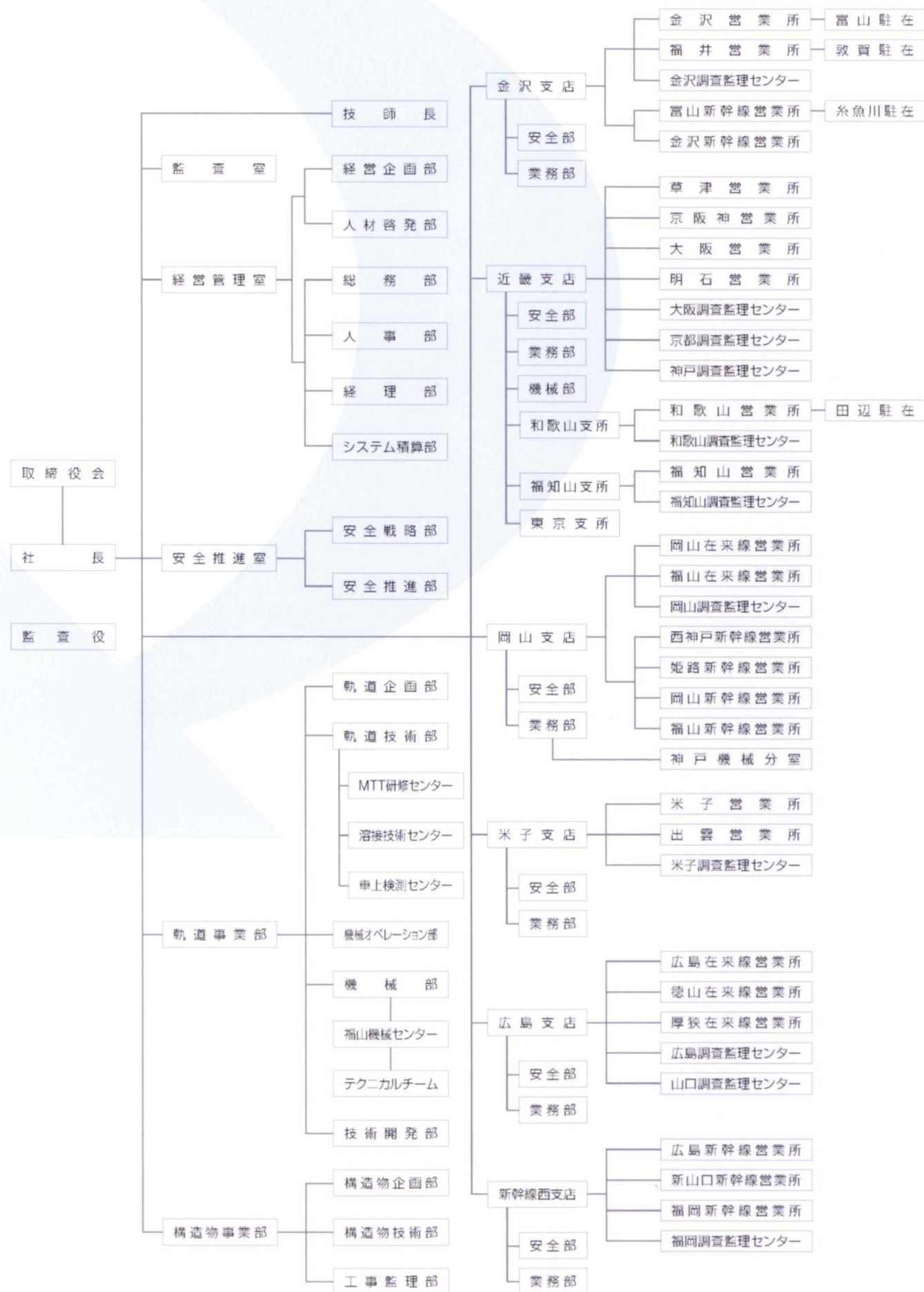
[商号]	株式会社 レールテック RAILWAY TRACK AND STRUCTURES TECHNOLOGY CO.,LTD.		
[代表者]	代表取締役社長 鈴木 喜也		
[所在地]	大阪府大阪市淀川区西中島5丁目4番地20号 中央ビル3階		
[設立]	1992年4月1日		
[資本金]	1億円		
[社員数]	1,277名(2019年4月1日現在)		
[年商]	約197億円(2018年度)		
[事業所]	6支店(金沢、近畿、岡山、米子、広島、新幹線西)・3支所(和歌山、福知山、東京) 24営業所(金沢、富山、福井、草津、京阪神、大阪、和歌山、福知山、西神戸、明石、姫路、岡山、福山、米子、出雲、広島、徳山、新山口、厚狭、福岡)他15センター、4駐在		
[主な取引先]	西日本旅客鉄道株式会社 えちごトキめき鉄道株式会社 土佐くろしお鉄道株式会社 大鉄工業株式会社 一般社団法人日本鉄道施設協会	四国旅客鉄道株式会社 錦川鉄道株式会社 若桜鉄道株式会社 WILLER TRAINS株式会社 第一建設工業株式会社	あいの風とやま鉄道株式会社 智頭急行鉄道株式会社 日本貨物鉄道株式会社 公益財団法人鉄道総合技術研究所

沿革

1992.4.1	西日本機械保線株式会社として会社設立登記	2009.6.1	技術開発部設置
1992.5.29	建設業法の許可(特定建設業)土木工事業、鋼構造物工事業	2011.6.1	組織改正 —近畿支店、新幹線西支店を設置 —岡山支店を移転 —和歌山支所、福知山支所及び京阪神営業所を設置
1992.7.1	・西日本機械保線株式会社として営業開始 ・山陽新幹線の軌道整備業務、保線用機械の検修業務を受注		
1995.1-4	阪神・淡路大震災による復旧工事に従事	2011.11.1	安全理念を制定
1995.4.21	建設業法の許可(一般建設業)、(機械器具設置工事業)	2012.6.1	組織改正 —監査室及び安全指導部を設置 —各支店に安全部・業務部を設置 —機械業務体制の見直し
1998.1.1	広島及び小倉支店を設置(駐在を支店体制に変更)		
1999.10.1	・株式会社日本線路技術大阪支店の業務を譲受、大阪支店設置 ・軌道検測業務、レール探傷事業を開始	2013.3.13	岡山統合事務所設置
2000.1	在来線の軌道整備業務を新規受注	2013.6.1	・北陸新幹線開業に伴う育成を開始(福山新幹線学園) ・組織改正 —安全企画部を設置 —神戸機械分室を設置
2001.5.22	建設コンサルタント(鉄道部門)の登録		
2002.1.10	計量証明事業登録(音圧レベル、振動加速度レベル)	2013.7.18	JR西日本グループ優秀会社賞を受賞
2003.4.13	尼崎事務所設置(本社及び大阪営業所を移転)	2014.6.1	組織改正 —福井営業所の設置 —福井営業所敦賀駐在の設置
2004.1.1	・福山機械センターを設置 ・新幹線大型保守機械を結集させ、機械検修を開始する		
2004.12.1	商号を株式会社レールテックに変更(本社を大阪市淀川区西中島に移転)	2014.10.1	・組織改正 —富山新幹線営業所の設置 —富山新幹線営業所糸魚川駐在の設置 —金沢新幹線営業所の設置 ・OB会設立
2005.4.1	組織改正 —軌道、構造物及びコンサルティングの3事業部、安全指導部を設置 —金沢支店、神戸支店、米子支店を設置 —各支店に調査監理センターを設置 —工事監理業務、レール溶接業務及び工事積算業務を新規受注	2015.4	・鉄道線路技術資料館を設置 ・機械研修考動館を設置
2005.7.1	軌道検査業務及び構造物調査、検査業務を新規受注	2015.7	・執行役員制度を導入 ・MTT研修センターを設置
2005.12.1	企業理念及び行動規範の制定	2017.4	組織改正 —構造物事業部の体制の見直し
2006.6.1	組織改正 —軌道事業部とコンサルティング事業部の統合、2事業部制	2017.6	組織改正 —軌道事業部の体制の見直し、車上検測センター設置
2007.7.1	組織改正 —安全推進部の設置		

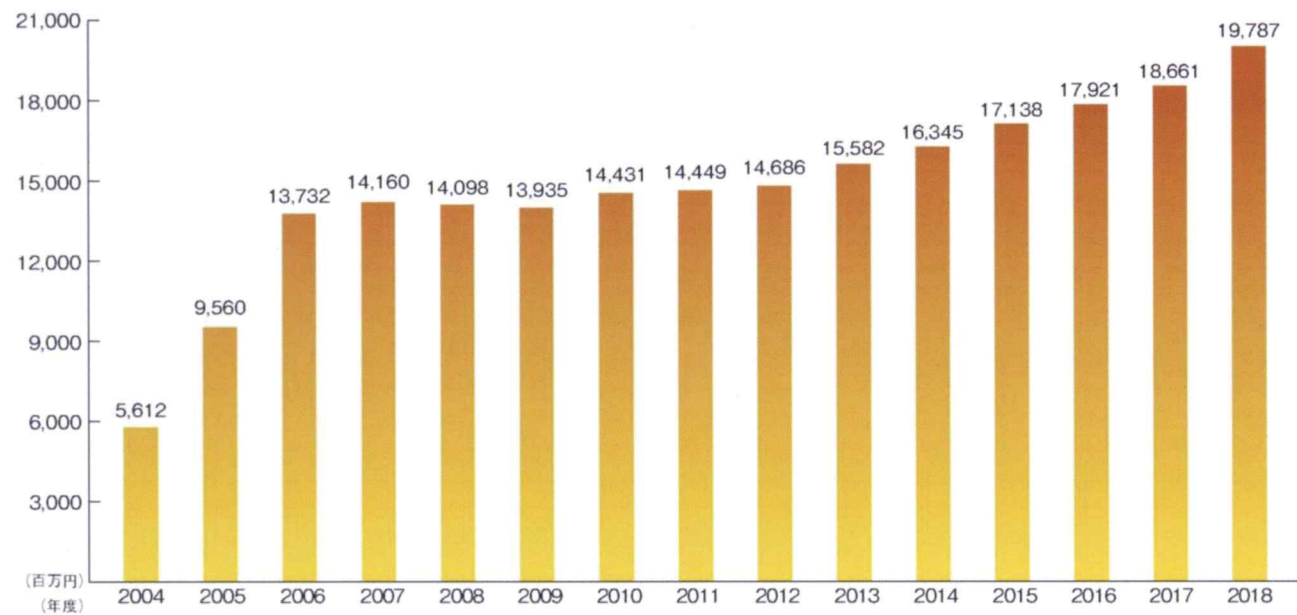
組織図

(2019年6月1日現在)

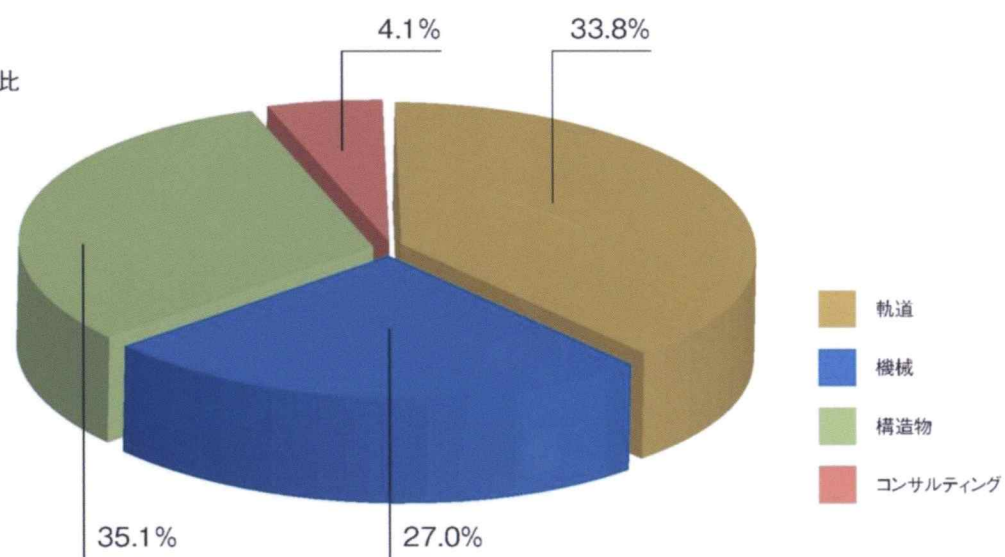


業績の推移 (2019年4月現在)

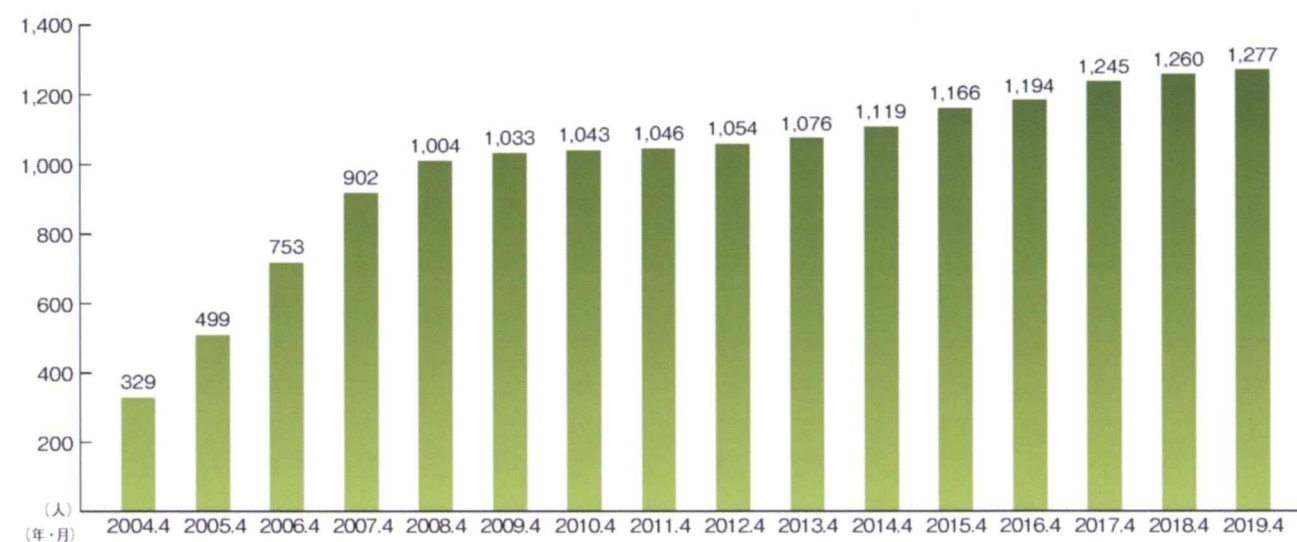
売上高の推移



売上高事業別構成比



社員数の推移



私たちの想い
ミッションビジョン

私たちの仕事
事業内容

継ぐもの
リレードナ

私たちについて
企業情報

24 hours

RAILTECH PROFILE

http://www.railtec.jp

検索

進化は加速する。

NUMBERS

7,206口
116歳
0.03mm

株式会社レールテック

本社
〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5丁目4番20号 中央ビル3F
TEL:06-6889-2870 FAX:06-6889-2880

金沢支店
〒920-0811 石川県金沢市小坂町西11番1
TEL:076-262-7210 FAX:076-255-1195

近畿支店
〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5丁目4番20号 中央ビル3F
TEL:06-6885-7401 FAX:06-6885-7404

岡山支店
〒700-0907 岡山県岡山市北区下石井2丁目3番8号
TEL:086-225-7175 FAX:086-225-7176

米子支店
〒683-0022 鳥取県米子市奈喜良248番地1号
TEL:0859-21-0961 FAX:0859-26-3167

広島支店
〒732-0057 広島県広島市東区二葉の里3丁目8番21号
TEL:082-261-9320 FAX:082-263-6173

新幹線西支店
〒754-0014 山口県山口市小郡高砂町2-32
TEL:083-976-8079 FAX:083-973-5588



鉄道の未来を守る。

「安全」、「快適」。

この期待に応えるため、

私たちは全ての技術力を注いで4つの事業に取り組んでいます。

株式会社レールテック

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5丁目4番20号 中央ビル3F TEL:06-6889-2870 FAX:06-6889-2880

2019年9月発行